

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530698

研究課題名(和文) オンライン/オフラインの社会関係資本の相互作用に関する実証研究

研究課題名(英文) Experimental Study of the Relationship between Online/Offline Social Capital

研究代表者

籠谷 和弘 (Kagoya, Kazuhiro)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：70313351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円、(間接経費) 1,080,000円

研究成果の概要(和文)：インターネット上の社会関係資本形成に現実世界の社会関係資本がもたらす影響について検証をするため、独自のSNSに大学生を参加させた。SNS上でのみコミュニケーションを行う「合同ゼミ」を開催してログデータを採取し、アンケート調査やインタビュー調査と合わせた分析を行った。また、インセンティブの導入が参加者のSNSでの積極性に与える影響について検証した。さらに、大学教育にSNSを導入する効果について、教育実践に基づく分析を行った。

研究成果の概要(英文)：Our research subject is to examine the effect of social capital in the offline world for the development of social capital in online communities. For this purpose, we gathered up the university students to a SNS(Social Networking Service). We conducted "online seminar", at which students could communicate only on SNS. Then we have analyzed the relationship between students' offline social capital and activity on SNS. We also examined the effectiveness of "point system" designed to encourage students' active involvement in SNS. Moreover we analyzed the effectiveness of introducing SNS to university education, based on our class activities.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：インターネット ソーシャルメディア 社会関係資本 大学教育

1. 研究開始当初の背景

近年のソーシャルメディアの利用者増加を受け、オンラインでの社会関係資本が注目されている。一方で、地域社会や企業などで SNS(ソーシャルネットワークサービス)などのソーシャルメディアが導入される動きもある。

地域の SNS においては、オンラインの社会関係資本とオフラインのそれが相互発展的に充実し、地域や組織が活性化するという現象が観察されている。SNS 内部での交流が現実世界での活動参加を促進し、SNS の活性化と地域の活性化が相乗的に進むという現象である。逆にこのサイクルが起これなければ、SNS は「立ち枯れ」を起こすことになる。地域 SNS や組織内 SNS で起こりうる問題はそれだけではない。これらの SNS ではもともと参加者の目的意識がある程度そろっているため、参加者に過度の同質性が生じてしまい、コミュニケーションが「煮詰まった」状態をもたらす可能性もある。

オンラインの社会関係資本とオフラインの社会関係資本、どのような場合に双方が相乗的に発展をすることができるか。特に地域 SNS や組織内 SNS などの潜在的に目的意識が定まっているネットコミュニケーションの場で、「立ち枯れ」や「煮詰まった」状態をもたらさず、相乗的な発展が可能になる条件は何か。その探求は重要な課題であるといえる。

2. 研究の目的

オンラインの社会関係資本の形成・発展においてオフラインの社会関係資本がどのように影響を与えるか。これが本研究の主たる目的である。それに加えて、SNS の「立ち枯れ」「煮詰まり」を防ぐための活性化方策の効果と、その際に社会関係資本がもたらす影響について検証することも本研究の課題である。本研究は、これらについて実証的な検証を行うことを目指した。

検証のために大学生や教員が参加している SNS「トモ COM.JP」をフィールドとして、以下の課題についてデータを収集し、分析を行うことを目指した。

- (1)ゼミでの課題の解決において、オフラインのネットワークと SNS 上でのネットワークがどのように利用されているか。
- (2)オフラインのネットワークとオンラインのネットワークについて、双方の活性度と課題達成との間にはどのような関係があるか。
- (3)日記の書き込みやコメントなど、SNS への参加を促進するためのインセンティブの導入などの取り組みが、SNS を活性化させることができるか。

3. 研究の方法

SNS「トモ COM.JP」に、研究組織メンバーとゼミ生が参加する。トモ COM.JP は連携研

究者の七條達弘をはじめとする大学研究者が管理しており、追加プログラムの実装やログデータの採取などが容易に行える。

トモ COM.JP 上でさまざまなイベントを実施し、その際の大学生間のやりとりをログデータとして採取する。同時に大学生にたいしてアンケートやインタビューによる調査を実施し、個人のネット利用実態やオフラインでの社会関係資本の状況などについてのデータをとる。双方を用いた分析により、トモ COM.JP 上での活動とオフラインの社会関係資本との関係を検証することを構想した。

イベントとしては、当初以下のものについて実施することを考えていた。

- (1)コミュニティ機能の利用促進、特に娯乐的なコミュニケーションの促進
- (2)ブログの書き込みやコメント、コミュニティへの参加に応じた「ポイント」の付与
- (3)オンラインでのコミュニケーションしかできない状況でグループに課せられた課題に取り組む「合同ゼミ」

これらのうち、(1)は個別的な活動としては行われたが、組織的なイベントとしては実施することができなかった。また(2)についても研究期間内での実施ができなかった。ただし過去に行ったポイント付与の実施について、その効果について検証する作業を行った。(3)については、2012年5月~7月に研究組織メンバーのゼミ生を対象とした合同ゼミを行った。研究組織メンバーのゼミ生を、原則として所属大学が異なるようにグループ分けし、期間内に段階を踏んで課題を与えた。グループ内でのメンバーのコミュニケーションは、トモ COM.JP 以外でしか行えないこととした。最終的な成果については7月に発表会を実施し、そこでプレゼンテーションを行わせた。

4. 研究成果

まず、オンラインの社会関係資本形成にもたらすオフラインの社会資本の影響については、合同ゼミのログデータやアンケートデータの分析を進めているところである。しかし、研究期間中にまとまった形で成果を出すことができなかった。

ただし予備的な研究成果として、インターネットの匿名性がコミュニケーションにもたらす影響についての分析(雑誌論文)、また学生の社会関係資本がゼミ活動での積極性に与えている影響の検証(雑誌論文)などについて成果を出すことができた。前者については、インターネットが当たり前になっている環境にある現代の大学生において、ネットへの親和性が高い方が匿名的なコミュニケーションを苦手としていることが見いだされた。また後者については、ネットワーク中心性がゼミ活動における努力水準に正の効果を持つこと、一般的信頼は努力水準に負の影響を与えることが示されている。

また SNS へのインセンティブ導入について、本研究の中で実践することはできなかったが、過去に実施したインセンティブ導入が SNS での活動にもたらした影響についての検証結果を成果とすることができた(雑誌論文)。

その他、トモ COM.JP 上での参加者たちの関係性についてネットワーク分析を行い、スモールワールドの入れ子状態型のネットワークが形成されていることを確認した(雑誌論文)。

設定した研究課題にたいし研究期間内に結論を出すことができなかったのは遺憾であるが、得られたデータを元に今後も研究を進めていきたい。

また、当初の研究計画では課題としていなかったが、SNS の大学教育への利用についての研究も行った。研究組織メンバーが実際に行っている SNS を利用した教育活動について交流を行うとともに、SNS を利用した場合としない場合の教育活動の違いや SNS と LMS(学習管理システム)との比較といった比較研究を進め、その成果を図書の形で出すことができた(図書)。SNS の教育利用について、比較の視点を持った研究は蓄積が乏しいのが現状である。その点で、今回の成果は貴重な貢献になったと考えられる。

研究期間中にスマートフォンの普及、それを受けてのオンラインゲームやツイッター、ラインなど新しいソーシャルメディアの急速な普及といった事態が生じ、「SNS 離れ」というべき動きが生じているという指摘もある。オンラインで形成される社会関係資本においても、質的な変化が生じている可能性がある。今後はそのような変化を織り込んだうえで、これまでの研究成果を評価するとともに、新たな分析をしていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

友知政樹、田中敦、七條達弘、友だち関係ネットワークの階層化とスモールワールド性の入れ子構造について 学生専用 SNS のデータ分析とモデリングおよびシミュレーション、理論と方法、査読有、26 巻 1 号、2011、83-97

Masaki Tomochi、Atsushi Tanaka、Tatsuhiko Shichijo、Fractal Structure of Small World in a Friendship Network、沖縄国際大学経済論集、査読無、8 巻 1 号、2012、29-36

籠谷和弘、ソーシャルメディアを利用した学習の効果に関する検討：オンライン合同ゼミ参加者へのインタビュー調査から、関東学院教養論集、査読無、23 号、2013、23-36

七條達弘、秋吉美都、藤山英樹、田中敦、福田恵美子、友知政樹、小林盾、籠谷和弘、金井雅之、ポイント制度によるソーシャル・ネットワーキング・サービスの活性化、理論と方法、査読有、28 巻 2 号、2013、165-185

藤山英樹、社会関係資本と大学のゼミナール活動 CPZ(200)モデルによるネットワーク効果を中心に、理論と方法、査読有、29 巻 1 号、2014、167-189

[学会発表](計5件)

Atsushi Tanaka、Masaki Tomochi、Emergence of Hierarchical Small-world Property in SNS for College Students、2012 International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications、2012 年 10 月 23 日、Palma, Spain

藤山英樹、SNS を利用したディベート準備における構造と成果、第 55 回数理社会学会大会、2013 年 3 月 20 日、東北学院大学

七條達弘、福田恵美子、換金レート可変のポイント制度による SNS 活性化の理論分析、第 56 回数理社会学会大会、2013 年 8 月 27 日、関西学院大学

藤山英樹、ボナチッチ中心性によるピア効果の推定 大学の演習活動を通じて、第 56 回数理社会学会大会、2013 年 8 月 27 日、関西学院大学

藤山英樹、ネットワークダイナミクスと一般的信頼について - 大学のゼミナール活動を通じて、第 57 回数理社会学会大会、2014 年 3 月 8 日、山形大学

[図書](計1件)

籠谷和弘、小林盾、秋吉美都、金井雅之、七條達弘、友知政樹、藤山英樹、ハーベスト社、ソーシャルメディアでつながる大学教育：ネットワーク時代の授業支援、2013、85

6. 研究組織

(1)研究代表者

籠谷和弘 (KAGOYA, Kazuhiro)
関東学院大学・法学部・教授
研究者番号：70313351

(2)研究分担者

秋吉美都 (AKIYOSHI, Mito)
専修大学・人間科学部・教授
研究者番号：40384672

金井雅之 (KANAI, Msayuki)
専修大学・人間科学部・教授
研究者番号：60333944

小林盾 (KOBAYASHI Jun)
成蹊大学・文学部・准教授
研究者番号：90407601

友知政樹 (TOMOCHI, Masaki)
沖縄国際大学・経済学部・准教授
研究者番号：20365886

藤山英樹 (FUJIYAMA, Hideki)
獨協大学・経済学部・教授
研究者番号：80327014

(3)連携研究者

七條達弘 (SHICHIJO, Tatsuhiro)
大阪府立大学・大学院経済学研究科・
教授
研究者番号：40305660